



## 「2015年秋季 JNN 社長会」で 武田社長が基調報告

9月17日(木)、ホテルニューオータニにおいて「2015年秋季 JNN 社長会」が開催され、武田社長が基調報告を行いました。概要は以下の通りです。

4月以降の視聴率は、全日、G帯、P帯とも対前年を上回ったが、朝ベルトが低迷している。下期の重点項目として、朝ベルトの視聴率アップに邁進したい。10月改編では、木曜日のドラマ枠をバラエティにしたことと、午後帯の再放送枠をなくし、『ゴゴスマ』を拡大したが、全体での改編は小幅にとどめた。このところ、改編率の高い期が続いたが、来年の4月、10月をにらみながら、視聴習慣の上から番組を育てるためにも我慢するところは我慢する姿勢で臨んでいきたい。

8月の『世界陸上北京』では、私も2回北京に行ったが、今回も含め10回の大会を放送してきた経験を活かし、日本人選手の活躍が少ない中で、世界のトップアスリートの走り、跳躍の美しさと感動を伝えることができた。注目競技の開始時刻を視聴者に分かりやすく伝えた効果もあり、視聴率は伸びた。セールス面では大阪大会に次ぐ成果を残すことができた。

9月から映像配信で世界最大手のNetflixがサービスを開始したが、その影響は大きく、日本における動画配信が変わっていくきっかけになると思う。NHKもインターネット業務を拡大中で、先週の鬼怒川の堤防決壊の報道でもかなりの時間にわたって同時再送信を行っている。我々も、堤防決壊では同時再送信を行ったほか、MBSでは大阪市長の重要な会見をライブストリーミングし、RCCでは広島での平和記念式典で行った。いつでも、どこでも、どんなデバイスでも動画が見られる方向に世界が向かっているのは間違いなく、私は「Anytime, Anywhere, Anydevice」という3つのANYを求めている視聴者のニーズにどう応えていくかが大きなテーマだと考えている。

在京5社では「民放公式テレビポータル TVer」のサービスを10月下旬から開始する。5局がひとつのポータルにまとまることで利便性を高め、ここに人が集まってくれば、大きなビジネスチャンスになる。テレビの見られ方が変わり、違法動画がアップされている現状を考えると、コンテンツを作っている私たちが、むしろ主体的にネットの世界に乗り込んでいく必要がある。放送だけでなく、通信という伝送路を持つことができるわけで、視聴者の見たい、知りたいものをいろんなデバイスで発信できると考えた方がいいと思う。

今はまさに JNN 各局の情報発信の真価が問われる時代だ。MBC は、日頃から CATV、コミュニティFM、県内 34 ヶ所の LIVE カメラや 200 人いる県内ふるさと特派員を通じて地域密着の取材活動を行い、その効果から GP 帯で何度も月間一位を獲得した。取材活動では、6 月 30 日に発生した東海道新幹線の事件での、MBS 記者の冷静な生レポート、カメラマンによるデジカメ、iPhone を駆使した慎重な撮影も、日頃の経験、努力の賜だ。また、今年度末に開業が予定されている北海道新幹線の系列企画では、HBC、ATV、IBC、TBC、TUF に参加いただき、きめ細やかな沿線情報を発信して盛り上げていく。これは先の北陸新幹線企画で MRO、TUT、BSN、SBC の放送企画が高く評価されたことに続くものだ。『モニタリング』の支持の高い RCC には、ベッキーさん演じる「木部さん」が広島を訪ね、生放送に乱入し、この模様を伝えた『モニタリング』3 時間 SP(6 月 25 日)は、広島地区平均 24.5%、瞬間 31.5%の最高視聴率だった。

こうした地域に密着した JNN の強みを武器に、地上波一位のネットワークになるべく引き続き努力してまいりたい。

以上